

## 事例紹介

しみすだに

### 千葉県市原市立 清水谷小学校

## 学校・教育委員会が協働し、 家庭学習を長く続ける土台づくり



清水谷小学校では、家庭での学習習慣の確立と、児童の学力向上につなげるために、eライブラリの家庭学習サービスを保護者へ周知しています。教育委員会と協力している取り組みは、地元紙の「千葉日報」にも取り上げられました。

## 授業 自分に本当に合った学習ができることが一番



▲相談しながら答えを考えています



▲100点をとって、二人でガッツポーズ！

「保護者の方や取材の方など大人が大勢いることもあり、最初は緊張していた児童たちが、eライブラリで〇（まる）をもらった時や、100点をとった時に見せたうれしそうな顔。あの顔を見られただけでも、この機会をつくってよかった」と授業後に語ってくれたのは、小坂祐一教頭先生。

この日は、家庭学習サービスをあえて授業内で使い、保護者はその様子を参観したり、別室で動画中継される授業風景を見ながら操作体験をしたりしました。

eライブラリをやるからには「家で勉強する習慣がついた」と言ってほしい。そのために「パソコン・タブレット等で手軽にできるから」だけではなくその効果を見せたかったと、小坂教頭先生は続けます。「eライブラリなら、次に進みたい児童はどんどん進めるし、つまずいている子は繰り返しやり直せる。自分に本当に合った学習ができることが、児童にとって一番良いのです」

## 学校 一生懸命な子どもの姿に、保護者もやる気に

### 小坂 祐一 教頭先生・阿部 広樹 教務主任のお話

家庭学習サービスは、無償でたくさんの教材を使えることに大きな反響があります。一方で保護者自身は例えば「国語の勉強なのにタブレットを触るの？」とピンとこない世代です。今日のように、実際に授業で使っている様子を目の当たりにし、疑問が解消される場を設けられたことは良かったと考えています。

今日は1年生が国語と算数を実施しましたが、児童は一人でじっくり考えたり、教え合ったり、答えを導くのに一生懸命でした。



▲阿部 教務主任 ▲小坂 教頭先生



▲一人でじっくり



▲時には教え合いも

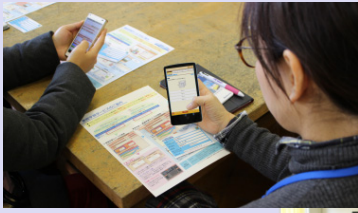
また、「標準」まで100点をとっていた児童が「挑戦」で×（ばつ）がついたのですが、自ら「標準」に戻って解き直していました。こちらから伝えなくても、児童は自分なりのやり方を見つけていくことができます。

集中力も続き、自分のペースで知識を蓄積しています。

## 保護者 体験して、使いやすさを実感

この日学校に来られた保護者は、授業の様子を見るだけでなく、体験用アカウントを使って、実際にeライブラリの家庭学習サービスを利用しました。

### ◎参観・体験を終えた保護者の感想◎



▲ご自身のスマートフォンでも操作を体験していただきました



- ・子どもが真剣に、楽しく取り組んでいる様子がわかりました
- ・子どもと一緒に家でやってみようと思います
- ・上の子は6年生ですが、中学生になっても使えることを知らなかったなので、来てみて良かったです
- ・意外に学習しやすかったなので、家でもやらせてみます

## 学校 成果だけでなく、チャレンジしたことに評価を

### 小野寺 源彦 校長先生のお話

参観された保護者から「子どもの学習履歴をどうやって見るのか」と質問があり、うれしく思いました。がんばっている児童に対して、教員だけではなく、保護者からも「チャレンジした」という前向きな姿勢を、褒めてあげてほしいですね。褒められてうれしいと、児童は続けなくなる。良いサイクルをつくっていきたいです。

今日のように、実際に見て触って効果をわかってもらうという、発信の場を設けることも、学校の役割であると考えています。



▲小野寺 源彦 校長先生

## 教育委員会 先生目線のバックアップが、運用のハードルを下げる

### 市原市教育委員会 学校教育部教育センター 生田 勲 指導主事のお話



▲生田 勲 指導主事

ICTの活用、eライブラリの活用を実現するためには、それらを利用する先生方にとってのハードルを下げる必要があります。家庭学習サービスの活用のために、市原市教育委員会では主に二つのことをバックアップしました。

一つは、市内小中学校の児童生徒全員分のIDカードを教育委員会で作り、各校へ配ったこと。もう一つは、各校のホームページに家庭学習サービスのリンクと、スマートフォン用の二次元コードを貼り付けたことです。

このように子どもがログインして学習を始めるまでの道筋をつけたことで、ハードルがぐっと下がり、利用校が劇的に増えました。子どもにとって、「IDカードを持っているのが当たり前」「家でeライブラリで学習するのが当たり前」になってほしいものです。



拡大



ログインID  
パスワード  
かぐねん  
なまえ  
がっこうコード (かていよう)  
アドレス <https://katei.kodomo.ne.jp>  
※パスワードはほかの人に教えないようにしましょう。

▲清水谷小学校では、IDカードを保護者面談で手渡ししました